

生涯学習情報紙

2021

発行：大和村教育委員会事務局・中央公民館

第331号

青少年の非行・被害防止 全国強調月間

木元侑菜さんから本の寄贈

みんなで守る。
君の未来



ネット利用による被害防止

- フィルタリングの利用
- 家庭でのルール作り
- 写真など個人情報の掲載に注意

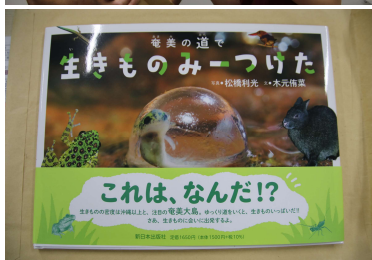
非行、不良行為はダメ!

万引き・振り込め詐欺
大麻・お酒・タバコ
深夜はいかい・いじめ

心配事、困りごとはまわりの人にまず相談



奄美野生生物保護センターの元アクティブレジャー木元侑菜さんが、写真絵本「奄美の道で生きものみつけた」を出版、奄美の多様な生きものの魅力を紹介したものとなっています。今回木元さんから村内の各学校に絵本を寄贈していただきました。木元さんは、以前にも奄美の自然を取り上げた本を2冊出版しており、そちらも各学校へ寄贈していただいています。



中山昭二あにいの四方山話(よもやまばなし)



(呪文)とシマ養生

昔シマでは薬や病院がない時代、自然界にある薬草や古くから伝えられている療法で対処しています。また集落にいるノロによるクチ(呪文)や、ものしり老人によるシマ養生が普通に行われており、私が子どもの頃はそその名残があります。イビリ(目のものもらい) ツツイヴェ(イボ) ハーヴェ(赤ちゃんの湿疹) ウシンクス(子供の頭にできるカサ) クルシャバ(皮膚病の一種・タムシ) など最近あまり見かけない症状が昔は多くあります。それらもクチや、シマ養生で治療していました。特にツツイヴェは子供の肘や膝にできており、墓の花を生けてあるボウフラのいる花瓶の水をかけると良いとの言い伝えがあり、私も親に言われそのようにしたことがあるが臭かった思い出がしかありません。子どもの頃の出来事で今でも鮮明に覚えているシマ養生があります。男子中学生が海で猛毒のアファ(オコゼ)を素足で踏んでしまい海に近い我が家に運び込まれ、すぐさまお湯が沸かされ大タライにお湯が注がれ、中学生の足は数人の大人につかまれてタライの中へ入れられました。足は真っ赤に変色し泣き叫んでいました。彼が「アファの毒よりタライのお湯が痛かった。」と後で言ったので周りの大人たちが大笑いしたのを覚えています。また、呪文でいまだにお年寄りから聞くのが魚の骨が喉に刺さった時に言う呪文です。地域によって多少違うと思いますが浦内では「ウノトゥリヌヌディ」鵜の鳥の喉と言い、それでも落ちないときは食べていた魚の骨をバシャ(バナナ)の根元へ刺すと骨が取れるというまじないです。科学的根拠のないこのようなシマの風習は現代においては通用しませんが、お年寄りが日々の暮らしの中で呪文を唱えることはシマの大切な風習文化の一つだと思います。

7月 青少年の非行・被害防止全国強調月間

夏休みは危険がいっぱい！？ 子供の非行・被害を防ぐために

子供たちが健やかに育ってほしい。それは家族や周囲の大人だけでなく、社会全体の願いです。しかし、家庭や学校、地域社会など、子供を取り巻く様々な環境の中、ささいなきっかけで、非行に走ったり、犯罪の被害に遭ったりする子供も少なくありません。毎年7月は「青少年の非行・被害防止全国強調月間」です。青少年を非行や犯罪被害から守るために、大人は何をすべきかを考えてみましょう。

チョウゲンボウ(長元坊)

奄美で冬鳥といえばサシバが有名ですが、ハヤブサの仲間のチョウゲンボウ(長元坊)もやって来ます。あまり馴染みのない猛禽類ではありますが、農耕地周辺では見かける機会が多いです。飛翔スピードはサシバよりも速く、獲物を見つけると高速で羽ばたかせてその場にとどまる飛翔(ニホバリング)をし、獲物へ狙いをさだめ急降下します。

